



**IPEJ**

**The Institution of Professional Engineers, Japan**

Tanakayama Bldg., 4-1-20 Toranomon Minato-ku Tokyo 105-0001, Japan

TEL +81-3-3459-1331 FAX +81-3-3459-1338

URL <http://www.engineer.or.jp/>

---

## **吉武 進也団長 開会の挨拶**

ご来賓の皆様、今回の研修にご参加の皆様、おはようございます。

私は、社団法人日本技術士会元副会長・カンボジア技術協力フォーラム会長の吉武進也でございます。

ここにグリーンテクノロジーの第3回研修を開始するにあたり、社団法人日本技術士会を代表して、ご挨拶を申し上げます。

ご承知のように、社団法人日本技術士会は、日本を代表するプロフェッショナルエンジニアの団体であります。

APEC エンジニア相互承認の枠組みを通じて、APEC 及び ASEAN の多くの国々と密接な友好関係を築いて来ております。

私共は、2004年1月及び2004年12月に、80名以上のカンボジアの若く、新進気鋭の技術者を迎え、グリーンテクノロジー研修を開催致しました。

過去2回の研修では、カンボジアの豊かな資源を利用した、クリーンエネルギーの生産、食品加工、環境保全、情報技術などを総合するグリーンテクノロジーについて、カンボジアの技術者の皆さんと広く討議致しました。

このグリーンテクノロジーを中心とする過去2回の研修は、幸いにして、参加した技術者の皆さんから高い評価を得ました。

これと同時に、この研修にご支援頂きましたカンボジア政府「鉱工業・エネルギー省」、「カンボジアエンジニア協会」、そして「ロイヤルプノンペン大学」からも、このコースを継続するようにとのご要請を頂きました。

今回の第3回研修では、第1回、第2回研修に於けるカンボジアの皆さんからご要望も取り入れ、「農産物加工」と、「環境に配慮したエネルギー開発技術」と「情報応用技術」の3つのクラスを用意致しました。

但し、「情報応用技術」のクラスは、来年の2月13日から5日間に行います。

研修参加者の皆さんには今回、英文とクメール語のテキストを併用して使うことで、これからの5日間で、より深い専門技術について学んで頂くことが出来ると思います。



**IPEJ**

**The Institution of Professional Engineers, Japan**

Tanakayama Bldg., 4-1-20 Toranomon Minato-ku Tokyo 105-0001, Japan

TEL +81-3-3459-1331 FAX +81-3-3459-1338

URL <http://www.engineer.or.jp/>

---

一方、カンボジア政府「鉱工業・エネルギー省」と密接な関係のある日本政府「経済産業省」も、日本技術士会が実施する研修が、カンボジアへの政策支援として、非常に重要であり、かつ技術支援として望ましい形(かたち)であると、よく認識されており、第1回、第2回研修に引続き、この第3回研修についても全面的に支援して頂くことになりました。ご支援に深く感謝申し上げます。

さらに、この第3回研修の開催にご支援頂いた、カンボジアの多くの関係者の皆様、日本の関係者の皆様、研修業務を委託して頂きました「財団法人海外技術者研修協会・AOTS」に厚くお礼を申し上げます。

なお、ここに研修の講師をご紹介します。

講師は、日本技術士会所属の経験の深い技術士です。

「農産物加工」コースを佐藤正忠(さとう まさただ)、加藤 洋(かとう よう)

「環境に配慮したエネルギー開発」コースを高城重厚(たき しげあつ)、長谷川 孝道(はせがわ たかみち)が担当致します。

なお、2月に行う「情報応用技術」コースは、本間 勝(ほんま まさる)及び本日お見えになってありませんが橋本義平(はしもと よしへい)が担当致します。

また、今、司会をしております日本技術士会事務局の秋山 誠(あきやま まこと)が、日本の技術士制度についてご説明する他、研修全般のお世話を致します。

今回の第3回研修の2コースに参加頂いた技術者の皆さん、ご多忙のところ、また、遠隔地から計50名の方に5日間の時間を割いて頂き、大変、有難うございます。

この5日間を通じて、カンボジアの豊かな資源を有効に利用するグリーンテクノロジーの技術を、しっかりと学んで頂きたくお願い致します。

そして、先ほどご紹介しました日本技術士会の技術士の皆さんと、友好を深めて頂きたく思います。

日本技術士会は、今後とも、カンボジアの皆さんのご協力を得て、研修を通じた技術協力が継続して実施出来るように、努力を続けて行きたいと念願しております。

簡単ではございますが、開会のご挨拶と致します。

有難うございました。